天文界

第百六十六號（第十五卷）　（昭和十年）二月號

天文界の非常時

（卷　頭　言）

昨年末に突如として出現したヘルクレス座の新星は，今や其のあらゆる點に於いて獨特な異常性のために，天文學の內外を騷がせてゐる．新星卽ちNOVAは，去る1925年の畫架座新星以來（北半球に住む吾々に取つては，むしろ1920年の白鳥座新星以來）の待望の的となつてゐたものであつて，實に本會創立以來，會員と共に親しく觀察し得る最初のものである．

西暦1572年カシオペヤ星座にテイヒヨ・ブラーヘが發見して以來，我が會員の多くは，「新星」といふものを只書物の上に於いて知つてゐたに過ぎないのであるが，こんどのヘルクレス座の星は，大恒星宇宙に於ける非常時の象徵として，又，飽くまで獵奇心と研究心とを滿足させるに應はしいものとして，見守つて貰ひたい．

こんどの新星は，去る十二月十三日の早曉に双子座の流星群を觀測中のブレンチス氏が發見したものである事を見逃したくない．かの白鳥座の新星も，やはり，同じ英國天文協會流星課長デニング氏の發見であつた．流星の觀測者は，平常から星座の知識を充分に持つて居るから，其の餘慶として此の如き新星の發見の名譽を得る可能性が最も多いわけである．本會觀測部の流星課のメンバーたちも，今後いよいよ奮鬪努力せられんことを望む次第である．

こんどの新星の研究觀察上，本會員によつて獲られた最初の成功は，木邊氏が自作の反射鏡に小形の對物プリズムを附加してスペクトル觀察を行ひ，又其の見事な寫眞を撮られたことである．プリズムを反射鏡に使用することは國內は言ふに及ばず，國外にも殆んど例の無い新工案であつて，之れにより反射鏡の效用を更に擴大した功績は偉なりと言はねばならない．天體物理學に關する限り，愈々反射鏡萬能の時世に入つたと稱すべきか！（山本）